

人と都市・観光の地球時代を、市民が支えます！

NPO法人

JAPAN NOW

観光情報協会

Non-Profit Organization JAPAN NOW TOURISM INFORMATION ASSOCIATION

東京都知事が認証した「都市・環境・観光NPO」が発信する隔月刊情報紙

第46号 発行日2007年3月25日

Contents

東北支部設立へ、フォーラムも	1
日伊シンポジウム(トリノ市局長)	2
霞が関情報(澤氏語る)	3
霞が関②(羽田拡張工事など)	4
観光人国記(那覇市長、松乃下女将)	5
JN協会6年の歩み ①	6
JN協会6年の歩み ②	7
江戸城再建。NEW SPOT(新)	8
荒木課長に聞く。COLUMN	9
お得な情報(美味しい話、マラソン)	10
提言「観光カスマ(寺前秀一教授)	11
お天気の話(音のミステリー)	12



日曜日はマイカーを入れないトランジットモールとなる「国際通り」。排気ガス対策と渋滞の解消とともに、那覇市民と観光客の交流も期待できる。写真＝那覇市提供

巻頭言

JN協会9番目の東北支部が4月13日誕生へ

記念講演は「新世紀・大東北圏の活力と魅力を探ろう」

——観光立国フォーラムin 仙台——

支部長に丸森・仙台商議所会頭を予定

JAPAN NOW観光情報協会(松尾道彦理事長)は4月13日午後、仙台市の宮城婦人会館で全国9番目の支部となる東北支部の設立総会を開き、支部長には仙台商議所会頭の丸森会頭(写真左)が就任する。



支部設立に続き行う記念講演会では、新潟を含む東北7県の観光振興や経済発展策について3人の専門家の話を聞く。来賓として村井・宮城県知事、佐伯・東北運輸局長、幕田・東北経済連合会会長らが出席する。

講演会では、昨年国土交通省から交通文化賞を受賞したJR東海相談役の須田寛氏(JN協会副理事長)が「観光立国と東北観光の魅力」について、元自治省(現・総務省)事務次官・松本英昭氏が「道州制導入の課題」について、鉄道運輸機構計画部長

の高山博文氏が「仙台の都市交通と東北新幹線延伸の経済効果」について講演する。当日は宮城県や仙台市を中心に東北7県から行政や民間企業の関係者約150人が参加する予定。また須田氏が出版した新刊書「新しい観光」が会場で無料で配布される。

渡辺・行革担当大臣がJN総会で講演 「道州制と公務員制度改革」をテーマに

JAPAN NOW観光情報協会は5月、東京のプレスセンター10階ホールで開く会員総会の記念講演会に、渡辺・行政改革担当大臣を招き「道州制の導入と公務員制度の改革」について講演していただくこととなった。多忙な国会日程を縫ってのご参加なので、日時は改めてご連絡します。

安倍総理は道州制の導入や公務員制度の改革に積極的だが、公務員制度の改革では自民党や霞が関の反発、抵抗が強く、渡辺担当大臣が持ち前の「突破力」でどう対応するか、注目される。

JN協会会員や一般の参加を歓迎。

オリンピックで都市活性化と再生を 日伊両国が東京でシンポジウムを開く

日伊両国は1月24日、東京のイタリア文化会館でオリンピックを通して都市再生を進める対策に関するシンポジウムを開いた。講師は冬季オリンピックを開いたトリノ市都市整備担当局長のアンジェリカ・チョッケッティさん、前小泉内閣で都市再生戦略チーム座長を務めた伊藤滋氏と青山・前東京都副知事の3講師が、オリンピックと都市の再生に関して意見を述べた。

この中でトリノ市の局長は「トリノ市の都市再生は2006年の冬季オリンピックを契機に取り組んだトリノ都市調整計画によって新鉄道路線が開設され旧工場跡地には新駅やエリアごとに大学本部、文化、生産施設などを作り、活性化を図った」と述べ、東京都が進める2016年夏季オリンピックと都市再生に指針を示した。

また青山氏は「東京オリンピックは都心から半径10キロ圏内に主な競技施設が整備されることを世界に訴えたい」と語り、さらに「ロンドンでは2012年オリンピックに備えて大ロンドン計画を推進し、公共交通整備に3兆円を投入する計画であり、東京でも大東京計画に取り組む必要がある」と強調した。

オリンピックを機としたシティづくり トリノ市の都市再生（トリノ市からの報告） トリノ市都市計画局都市整備担当局長 アンジェリカ・チョッケッティ氏（写真）

トリノ市はイタリア北西部にある古代ローマの都市でもあり、1861年には近代イタリア統一後最初の首都となりました。その後、首都はフィレンツェそしてローマに移ります。そのため、トリノは1900年代に入ると大工業都市へと姿を変えていきます。



第二次世界大戦後の20～30年間に非常なスピードで成長しましたが、80年代に入ってリーダー産業の衰退現象が始まり、自らの将来を再定義する必要性に直面したのです。

トリノはこの10～15年間に市全体を巻き込んだ抜本的な都市再生プロジェクトを進めました。その基本条件となったのが鉄道路線再編成プロジェクトであり、“パッサンテ” Passanteと呼ばれる「新鉄道路線」が構築されました。鉄道は地下に入り、その上にトリノ市を直進・縦断する「大通り」が新たに設けられたのです。この「大通り」は、“スピーナ・チェントラーレ” Spina Centrale（日本語に直訳すると“背骨”の意味）と名付けられました。

「トリノ都市調整計画」は、「新鉄道路線」沿いの旧工場跡地を新駅や地上の新大通り上の交通アクセ

スビリティの主要戦略エリアと位置づけています。そして、エリアごとに大学本部、文化施設、先進的生産施設などの役割・機能が付与され建築的、文化的に質の高い都市を構築することになります。

「スピーナ・チェントラーレ」大通りは総面積約200万㎡にまで広がり、「新鉄道路線」の各駅周辺には特化した機能が配置されています。このように各「スピーナ」は様々な役割を持ちつつ、総体としてはトリノ市の新中心部を形成しています。「リンゴット・旧卸売市場」エリアは地理的には「スピーナ」の外にあり別の役割を持ちます。

地下鉄実現は大幅な遅れをみせていますが、目下地下鉄一号線が建設中です。ポルタ・ヌオーヴァ駅をトリノ市西方のコレーニョ市やリヴォーリ市と接続する線です。なお、資金調達の確定した第二号線はポルタ・ヌオーヴァ駅からリンゴットや南側の周辺市町村への路線を実現することになります。

2006年冬季オリンピックは、一方でトリノ市にとってビッグチャンスを生かすための特別なハイライトとなり、他方では大規模に投資された経済的資源のおかげで、トリノが必要としていたインフラや公共サービスの近代化プロセスを強く加速するための最良の機会となりました。

オリンピック競技用施設、インフラ、サービス施設等の所在地や設計等の決定にいたる選択基準は、オリンピック後の施設類再転換を容易にする点を留意したものです。インフラやサービス整備は、大型イベントを実施できる多目的施設づくりにエネルギーをかけました。オリンピック終了後わずか数ヶ月の2006年夏、すでに、「オリンピック効果」や地方自治体によるイタリア国内および国際的なプロモーション活動の最初の成果をみることができました。

オリンピック後の今後の数年間にすでに国際レベルの大型イベントがいくつも予定されています。そのため、トリノは、ヨーロッパ、さらには世界レベルでも新しい役割を持つ都市—すなわち「自由時間」都市、文化都市、会議観光都市、教育・研究都市（高等教育機関と研究機関の分野）、工業都市、第三次産業都市（内外の革新的企業・機関の存在）—となることを目指し、磨きをかけていくことでしょう。

そしていずれの場合も常に生活の質に対し特別のアクセントがおかれています。なぜならトリノは歴史的都市に、美しい川、丘陵そして周辺の山々等の素晴らしい自然環境資源の加わった、他所では見られない稀有な財産を誇る都市であるからです。

● トリノ 基礎データ

	トリノ市	トリノ都市圏 38市町村)
面積	130 k m ²	6,830 k m ²
人口	902,000名	1,711,000名

（翻訳文責：JAPANITALY.COM 大島悦子）

東京 霞が関発の最新情報 国土交通省・総務省・財務省

銀行員から旅館主人に華麗なる転身

外国人客を積極的に受け入れる

日本観光旅館連盟副会長・外客受入対策委員長
澤 功（さわ・いさお）氏



—銀行員から旅館の主人になったのは何がきっかけですか。

銀行で働いているときに「澤の屋」の一人娘のヨネ子と結婚したのが、旅館業になった理由です。

義母が49年に旅館を始めたのです

が、早く娘に婿を取って継がそうと考えていたのに引っかけた、というわけです。結婚した64年はまだ修学旅行が盛んで月の半分ぐらいは修学旅行の生徒が見えていました。当時は義母のほかに伯母もあり、最初は銀行に行っていたのです。旅館の仕事が忙しいので銀行を辞めて番頭になりました。しばらくは修学旅行の生徒で忙しかったのですが、次第に少なくなって商用旅館に変えました。72年に近くを走っていた都電が廃止されて、客が減りました。

—それで外国人を受入れるようになったの？

そうではなく旅館の客が少なくなってきたので、24部屋あったのを12に減らし、アパートにして稼ぎました。従業員も辞めてもらい、私は外で働いてホテルのヘルパーや弁当屋までしました。うまくいきませんでした。82年7月には3日間、お客はゼロという状態になってしまいました。

何とかしなくてはいけないと思い外国人を泊めている東京・新宿の矢島旅館を家内と訪ねました。設備は和室のままなのに、お客であふれかえっていました。矢島さんの話している英語も私に分かる程度なので外国人の受け入れを決意しました。外国人を積極的に受入れている旅館の全国組織「ジャパニーズ・イン・グループ」に入会しました。

—大変に苦労したと聞いていますが。

準備もしないで始めたのですからいろいろなことがありました。お風呂に入ると栓を抜いてしまうとか、便所で金隠しの方で出して外に漏らしたり大変でした。予約してからの支払いも現在ではカードで行っていますが、最初は4千円の小切手でもらいそれを換金するのに5千円もかかるということもありました。外国人は部屋に入ればかまわない方が良く、ということが分かるまではどうしたら喜ぶか、で頭を痛めました。外の人と交流するのが楽しみだということが分かり、飲み屋やレストランで地元の人と交流するように進めています。

—どこの国の人が多いですか？

欧米人が80%を占めています。特にヨーロッパから

の人が50%と多いですね。平均すると3泊4日が多いです。8年ぐらい前からインターネットの予約が電話や手紙より増えているのが目立ちます。

—ビジット・ジャパン・キャンペーン（VJC）ではどのような協力をしていますか？

バッチ大作戦をしています。私のところで泊まるオーストラリア人は必ずコアラの人形を持ってくるくれます。そうすると一度行きたいと思っで行ってきました。カナダの人もカナダに来いというバッチをくれました。私は海外に行くときは、「日本にいらっしやい」というバッチを持って会う人毎に渡してます。国の金でこうしたバッチを作るべきだといろいろな会議で主張しています。

（聞き手：阿部和義）

【澤氏のプロフィール】

新潟県出身。60年中央大法学部卒、東京相互銀行（現在の東京スター銀行）に入社。65年退社し旅館「澤の屋」経営。82年から外国客を受入れている。2000年観光カリスマ。06年藍綬褒章受賞。69歳。

あんな話 こんな話

● おおっぴらには言えないが・・・

● 2月の下旬、寒いはずの日本を離れてシンガポール、マレーシアに行った。金沢のゴルフ、飲み仲間7人と。寒さと雪でゴルフができない金沢の連中が私を誘う毎年恒例の行事だが、今年は暖冬でアテ外れだった。

● アジアやハワイなどに行くごとに思うのだが、年々先方の生活水準が上がっていることと、円安が重なり物価は決して安くない。中でも、イスラム教徒が多いマレーシアでは、酒やタバコがべらぼうに高く、ビールの小瓶が800円から1000円もする。シンガポールも高い。

● そんな中で、シンガポールの高島屋に入っている「竹葉亭」に現地の若い夫婦が来ていた。メイドに子守をさせ、食事をしている。昔は見かけない風景だったが、裕福な人が増えたものだ、と実感した。

● マレーシアは、国立病院はタダだそうで、酒もタバコも高いとなれば、病人は少なく平均年齢も伸びているはず、と思った。ところが、ガイド氏は「脂っこい食事や、春夏秋冬といった季節がない環境は決して長寿を生みません。季節感があり、体にいい日本食を探っている日本人には敵いません」とのたまう。

● 興に乗ったガイド氏、さらにこんなことも言っていた。「こちらでは、日本人を尊敬する人が多くいます。なぜか分かりますか」。クビを捻っていると「教科書には載っていませんが、第二次世界大戦で、日本軍がイギリス、オランダなど欧米諸国と戦い、植民地支配を終わらせたこと、日本軍は欧米軍と戦争したのであって、マレーシア人とは戦火を交えていません。ですか

霞が関発の最新情報（２）

環境省が10年で温泉の成分分析義務付け

環境省は07年2月に温泉法改正案をまとめた。通常国会に提出する予定。それによると「温泉」と偽装する悪質業者を締め出すために10年ごとの成分分析を義務付ける。違反した場合は30万円以下の罰金を科す。

現行法では温泉の利用業者は施設を作った時に都道府県の登録検査機関に委託して成分分析を行い、その結果を施設内に表示することが義務付けられている。

環境省の調べでは分析してから10年以上経っている業者が4割以上を占めている。このため04年に白骨温泉（長野県）の入浴剤混入などのほか水道水の沸かし湯を温泉と称するなどの不正表示が各地で問題になった。改正案では業者は分析結果を都道府県知事に届け出て掲示することが義務付けられた。

国土交通省が道しるべ策

国土交通省は外国人観光客を2010年に1000万人にする「ビジット・ジャパン・キャンペーン」（VJC）を進めている。

そのひとつとして、外国人に分かりやすい案内標識づくりを行っている。また携帯端末を使って来日外国人に情報提供をするような実験を進めている。携帯ゲーム機「ニンテンドーDS」を画面に現れる地図上の番号を押すと、英語と日本語の音声や文字で名所旧跡が紹介される。これは国土交通省が全国25カ所で実証実験を行っている「まちめぐりナビプロジェクト」の一つで、中央区のNPO法人「東京中央ネット」の提案である。

東京都が12年度に海外観光客700万人に

東京都は3月、2012年度をめどに外国人観光客を05年度より5割多い700万人に増やす計画をまとめた。

10年にも国際化する羽田国際空港でアジア向けの増便が見込まれていることからである。一方、都内を訪れる国内旅行者の目標は5年後で05年度比の1.2倍の5億人としている。

千葉県が2月1日から2カ月間観光キャンペーン

千葉県は2月1日から2カ月の予定で観光をPRする「ちばデスティネーションキャンペーン」を始めた。「房総発見伝」を合言葉にJRの駅や観光地でいろいろな活動をしている。

各地の情報ご提供を！

会員の皆さんからの情報を期待しています。

羽田空港拡張工事開始へ

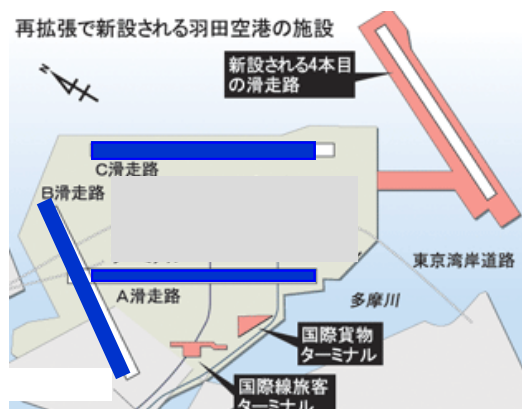
10ヶ月ずれ込み3月末着工

国土交通省は3月12日、羽田空港の4本目の滑走路の建設工事を、3月30日に着工すると発表。これによって供用開始時期は当初の予定より約10カ月ずれ込み、平成22年10月となる。工事着工が遅れたのは、千葉県の漁業関係者との補償協議が難航していたためである。

羽田空港には現在3本の滑走路があり主として国内線に使われているが、満杯の状態。新しいD滑走路ができると、現在の能力（1時間当たり29便、年間28.5万回の発着）が4割近くアップする。成田空港の第二滑走路建設と併せて、航空事情は大幅に改善される。

なかでも羽田空港の国際線は現在は臨時チャーター便が主で、近隣諸国からは定期便増便の要請が相次いでいる。国際線の増便が実現すれば、中国をはじめとするアジア諸国などからの観光客が増え、政府が目指している「2010年には訪日客を1000万人に増やす」ことの実現に、支援材料となりそうだ。

D滑走路に近い川崎市が、最新医療施設の集積を海岸近くに建設する計画を進めるなど、経済効果も大。



青色は現行滑走路、ピンク色がD滑走路予定

「金沢の観光」一層の振興目指す 北陸支部が決起集会

JN協会北陸支部の中核となって活動が続いている「郷土発展振興会」（金沢市、加藤愛恵会長）は3月5日、金沢市の本部に白澤照雄JN協会副理事長・事務局長を招き、アクティブ会員との意見交換会を開いた。

集まったのは、振興会の中核メンバー10数名。白澤氏が、JN協会の理念、発足から今日までの活動状況などの説明。これを元に、日本の観光立国のあり方、金沢市でいっそう観光振興を図るには何をすべきか、など活発な論議を交わした。

この会では、4月13日の東北支部設立総会へ積極的な参加、北陸支部の団体会員を増やし、支部の活性化を進めるなどで、合意した。

観・光・人・国・記

観光振興の基本は環境対策

住みよい街づくりで、気持ちよく那覇へ

翁長雄志・那覇市長



翁長雄志（おなが・たけし）

1950年生まれ、75年法政大学法学部法律学科卒。85年、那覇市議当選、2期務めたあと92年沖縄県議これも2期。2000年12月、那覇市長当選。32年ぶりの保守系市長となり、現在2期目。

「観光の一番のベースとなるのは、環境です」観光と環境を、このようにズバリ一言で表現した市長に初めて会った。観光立国、環境、都市再生を柱に活動を続けているJN協会としては、“わが意を得たり”である。

市長になってもっとも力を入れたのは？との問いに、「市長になってすぐ、ゴミ問題に取り組みました。隣町に那覇のゴミをもって行き処理していたのですが、反対が出ていましたので、しょちゅう行って町民と車座になって話を聞き、新しい処理場建設にこぎつけたのです」「ゼロエミッションに取り組んだのも全国的に最先端だったと自負しています」「いままゴミゼロ運動や屋上の緑化促進など、環境問題と取り組んでいます」。

住民の住みよい街は、観光客にとっても訪れて気持ちよいく街のはず、市長の冒頭の言葉は、こうした文脈から出てきたのである。

那覇が経済特区・FTZ（フリー・トレード・ゾーン）に指定されたのは87年、以来コール・センターはじめ沖縄に進出する企業が増え、全国的な少子化傾向のなかでも、人口が増加し続けている特異な地域なのである。そんな中、サービス業など“ホスピタリティー産業”中心の産業構造を持つ県都・那覇市の人口は30万人を超え、観光客もほぼ年々増加し、05年には初めて500万人の大台を突破した。まさに、観光で生きる街といえよう。

今後の取り組みについて聞くと「渋滞が恒常化している国際通りを、日曜日ごとにマイカーを入れないトランジットモールにして排ガス対策を進める。環境に優しいモノレールも次第に市民権を得てきている。さらに路面電車の導入も考えられる」など、やはり“環境重視”の方針を示す。

国際観光についても「半径2000キロ圏に、東京、大阪はもちろん、上海、香港、台北、ソウル、マニラという大都市があり、シンガポールや香港以上の観光都市になる可能性がある」と、上海、香港、ソウルの沖縄コンベンションビューローを足場に、市長自身誘致に務めている。「上海などの観光関係者と会うたびに質問や要望が深く、濃くなっている」と言い、いま10数万人規模の海外観光客を大幅に

増やす自信を深めつつある。「ただ残念なのは、米軍占領下で左側通行だったのを本土にあわせ右に変えたり、英語教育も本土にあわせたため実用化の面で後退したり画一化された弊害を感じる。沖縄の奥深さを認めていただきたい」と、本土政府への批判もチョッピリ。（加納）

琉球王朝文化を伝え、進化させる

映画・八月十五夜の茶屋のモデル「松乃下」

沖縄県那覇市に、二つの看板を持つ料亭がある。『八月十五夜の茶屋』の『料亭・松乃下』である。女将の宮里由紀子さんは那覇市観光協会の副会長でもあり、英語の同時通訳の資格をもつ才媛。

約340年の伝統をもつこの料亭は、辻町という那覇市最大の歓楽地にあったが、日米戦争の激戦で灰燼に。



尾類（ジュリ）という遊女、といっても個人営業主のような存在で、本土の花魁を思い浮かべると間違え。辻町自体が、このジュリの主だった人たちが営業・経営全てを仕切り、美妓3000人といわれる“女護が島”だったという。そこへ4歳の時に貧村から売られて『松乃下』にきた先々代の女将・上原栄子さん（故人）が、1952年に元の敷地に再建した。

沖縄地上戦で、悲惨な状況に追い込まれた沖縄県民、ジュリたちの生き様、米軍占領下で基地内にコーヒー店を開き、『松乃下』再建にこぎつけるまでの経緯は、上原さんが書いた「辻の華」戦後編（上下巻、時事通信社）に詳しい。沖縄地上戦の実態、米軍占領下の日常生活など、一気に読ませる。その奮闘振りが、「八月十五夜の茶屋」というブロードウェイの舞台、映画製作のヒントとなっただろう。

年配の方なら1961年ごろマーロン・ブランドが出演していたハリウッド映画を思い出すだろう。映画では京マチ子さんが出演しているが、そのモデルが上原さんである。

本題に戻る。『松乃下』では、琉球王朝料理を現代風にアレンジしたものが中心で、琉球伝統の衣装をつけた女性たちの踊りを鑑賞しながら、料理と泡盛を楽しむ趣向となっている。辻町は、琉球王朝が外国使節や貿易商らの接待場所として開設を許したという経緯から、王朝時代の伝統が残っている。

その料理の実力は、2月24日日経プラス1掲載の「専門家おすすめの空弁（そらべん）」ベスト10で、ここの茶屋鮎が第2位に入ったことで証明できる。

最後に、12年前に経営を受け継いだ宮里女将が一言。「伝統の上に立ちつつも、常に進化、深化を目指しています。なかでも、那覇三大祭りの一つといわれた“ジュリ馬行列”の復活をぜひに、と思っています」。再現したら、訪れたいものだ。（加納）

『松乃下』（900-0037 那覇市辻2-10-14）

電話 098-868-2945 (E-mail: teahouse@ona.att.ne.jp)

JN協会6年の歩み①

2001年4月発足したJAPAN NOW観光情報協会は、7年目を迎え順調に活動を展開しています。
「東北支部設立と観光立国フォーラム in 仙台」開催にあたり、これまでの歩みを振り返ってみます。

JN協会の活動目的

21世紀は世界的な観光交流が拡大し、「観光の世紀」と言われています。政府も官民一体で振興に取り組んでいます。JAPAN NOW観光情報協会は平成13年4月に「都市再生・観光振興・環境保全」を目的としたNPO法人として石原・東京都知事から認証され、活動しています。日本が観光立国として発展するためには、従来の観光振興だけでは限界があり都市の再生、活性化による地域経済の振興や環境保全が必要です。

当協会はこの理念のもと、市民レベルの「第三の社会セクター」(NPO)の立場から既存の「第一の社会セクター」(国、自治体など公的機関)や観光、鉄道、航空、電力、ゼネコンなどの「第二の社会セクター」(営利法人)が発信する都市再生・観光・環境保全情報の補完に取り組んでいます。

JN支部の設立

- ・新宿支部(2001年4月、片山文彦・花園神社宮司が支部長)
- ・北陸支部(2002年10月、水野卓哉・北陸鉄道会長が支部長)
- ・立教支部(2003年12月、支部長は学生会員の持ち回り)
- ・九州支部(2004年3月、長尾亜夫・西日本鉄道社長が支部長)
- ・中部支部(2004年7月、須田寛・JR東海会長＝当時＝が支部長)
- ・神戸支部(2005年3月、岩田弘三・神戸商工会議所副会頭が支部長)
- ・北海道支部(2005年11月、JR北海道会長の坂本眞一氏が支部長)
- ・四国支部(2006年4月14日、JR四国会長の梅原利之氏が支部長)
- ・東北支部(2007年4月13日＝予定、丸森仙台商議所会頭が支部長へ



写真は発足メンバー

JN協会の活動実績(講演会)

- 第1回:「国際観光を楽しむ」 平成13年10月22日(月) 基調講演:向山秀昭氏(国際観光振興会長)
- 第2回:「都市の活性化と国際観光」 平成14年1月31日(木) 講演者:カトリヌ・オーデン氏(フランス政府観光局長ら)
- 第3回:「都市の交流と国際観光」 平成14年5月21日(火) 講演者:羽生次郎氏(国土交通省国土交通審議官)
- 第4回:「北陸新幹線と地域振興」 平成14年10月4日(金) 於:金沢市 講演者:松尾道彦氏(鉄道建設公団総裁、当協会副理事長)
- 第5回:「内外経済事情」 平成14年11月21日(木) 講演者:渡辺 修氏(日本貿易振興会理事長)
- 第6回:「激動する航空業界の現状と今後」 平成15年5月30日(木) 講演者:野村吉三郎氏(全日本空輸会長)
- 第7回:「江戸文化と大道芸」 平成15年 8月10日(日) 於:新宿・花園神社 シンポジウムのパネリスト: 片山同社宮司ら4名
- 第8回:「観光立国と箱根の魅力」 平成15年9月4日(木) 基調講演者:中村徹氏(日本観光協会会長)。
討論者:山口昇士(箱根町長)、金澤博(国土交通省観光部長)、福川伸次(電通顧問)の各氏。
- 第9回:「九州新幹線の開業に向けて」 平成16年3月1日(月) 於:ホテル日航福岡 講演者:高山博文氏ら
- 第10回:「日本経済の再生と観光立国」 平成16年5月27日(木) 講演者:福川伸次氏(元通産事務次官)
- 第11回:「中部国際空港の開港と観光交流」および「愛・地球博の成功を目指して」
平成16年7月15日(木) 於:名古屋市 講演者:平野幸久氏(中部国際空港会社社長)、中村利雄氏(万博事務総長)
- 第12回:「観光立国と国の安全」 平成16年12月16日(木) 講演者:国松孝次氏(元警察庁長官、前スイス大使)
- 第13回:「21世紀は大名古屋圏の時代」 平成17年1月25日(火) 於名古屋市・銀行協会ホール
基調講演:福川伸次氏
パネラー:奥野信宏、安原敬裕、須田寛、水尾衣里の各氏
- 第14回:「神戸空港開港に当たって」平成17年3月17日(木) 講演者:茨木康男・大阪航空局長、山本朋廣・神戸市港総局参与、神田勉・同市企画調整局参与
- 第15回:「サッカーと観光立国」 平成17年5月24日 講演者:鈴木昌・Jリーグチェアマン(JN通常会員総会のあと) 於ホテルKKR
- 第16回:「大九州圏観光フォーラム2005」平成17年9月21日(水)。福岡市の西鉄グランドホテルで。渡辺修・ジェトロ理事長ら5人講師
- 第17回:「21世紀は大北海道圏の時代」平成17年11月08日(火)。講師:電通顧問の福川伸次氏(元通産事務次官)、
照明デザイナーの石井幹子氏、国土交通省総合観光政策審議官の柴田耕介氏ら4人。
- 第18回:「大四国圏の活性化と将来展望」平成18年4月14日(金)。講師:機械産業記念事業財団会長の福川伸次氏ら3人。
- 第19回:「地球規模の観光大交流時代ですよ」 平成18年5月19日、第5回通常会員総会記念講演会。講師は岩村・前国土交通事務次官マリ・クリスティーンさん。
- 第20回:「魅力溢れる大中部圏の現状と将来」平成18年7月14日(金)。講師は須田寛・JR東海相談役、金澤博・鉄道運輸機構理事(新幹線担当) 200人参加。翌15日は「かほく市」で、北陸支部主催の講演会(講師・松尾理事長ら4人)120人参加
- 第21回:「第2回・21世紀は大北海道圏の時代」 平成18年11月9日〔予定〕。札幌市で。講師は、鈴木久泰・国土交通省航空局長、小川康則・総務省行政課理事官、大多和巖・農林中金総合研究所社長
- 第22回:「食育・動育・心育による町おこし」「港・横浜と観光」平成18年11月28日(火)。講師は、中尾・国交省港湾局長ら。
- 第23回:「新世紀・大東北圏の活力と魅力を探ろう」平成19年4月13日(金)。仙台市で、講師は須田寛・JR東海相談役ら3人。

JN協会6年の歩み②

JN協会の活動実績（見学会）

- 第1回：山梨県都留市の山梨リニア実験センター 平成13年11月8日（木）。JRマグレブ・リニアカーの試乗会。丹羽理事長以下15名が参加、時速450キロを体験。
- 第2回：東京電力柏崎刈羽原発など。平成14年8月24日（土）、25日（日）参加者25名。協力：原子力発電技術機構
- 第3回：石川県・能登空港 平成15年7月8日（火）7月7日開港した能登空港見学。丹羽理事長、水野・北陸支部長ら10名が参加。
- 第4回：都留市リニア実験センター 平成15年10月8日（水）松尾副理事長や電力、ゼネコン、鉄道などの団体会員ら30名参加。時速500キロを体験。
- 第5回：横浜市みなとみらい線 平成16年1月21日（水）2月1日開業を前に、丹羽理事長、松尾副理事長ら30名が参加。
- 第6回：九州新幹線（鹿児島中央駅～新八代駅） 平成16年3月1日（月）3月13日の開業を前に、丹羽理事長、松尾副理事長ら20名が試乗会に参加。
- 第7回：開港前の中部国際空港 平成16年7月15日（木）。松尾理事長ら約20名が参加。
- 第8回：建設が進む神戸空港 平成17年3月17日、松尾理事長ら20名が参加。
- 第9回：開港前の神戸空港 平成17年3月17日 松尾理事長以下約20人。
- 第10回：開業前の「つくばエクスプレス」試乗会。平成17年7月27日、11名参加。
- 第11回：3回目のリニア試乗会。都留市リニア実験センター 平成18年10月27日。須田寛JR東海相談役が講師となり、松尾理事長らが参加。



時速500キロで走行中のリニア[06・10・27]
山梨実験線センター屋上から杉行夫氏撮影



リニアモーターカー試乗会。北海道、九州、北陸からも多数参加し、総勢30人近く。セットして下さった須田JR東海相談役の感謝。

JN協会の活動実績（イベント）

【大道芸シンポ】 2003年8月10日午後5時30分から、江戸開府400年事業に協賛し「市民 手づくりの江戸東京 まつり」を、東京・新宿の花園神社で開催。源吾朗さんの大道芸披露、今村昌平監督の映画「ええじゃないか」のさわりを上映、それにまつわる大道芸についてシンポジウムを落語家・古今亭菊輔さんが司会。100人が参加し江戸情緒を楽しんだ。

なお8日には、ロボット博士で有名な橋本周司・早稲田大学教授の講演「ロボットが宗教を変えられるか」が行なわれた。主催は花園神社。

【国際交流】 2004年10月23日、JN協会と富山県新湊市がイタリアのティボリ市長と助役招待、新湊市での「新湊産業海鮮まつり」に参加、保育園児らに迎えられ。真ん中は分家・新湊市長。新湊市は、その後合併で「射水市」(分家市長)に。



2004年10月25日、東京・プレスセンターで「ティボリと新湊の挑戦」と題する国際観光シンポジウムを開催した。マルコ・ヴィンチェツィ・ティボリ市長、分家・新湊市長、須田・JN協会副理事長、鷲頭・国交省観光審議官、大島悦子の各氏が「イタリアの世界遺産都市と観光立国の街づくり」について討論。参加者約150人。

今後とも、海外都市の市長との交流事業を進める予定。

JN協会の活動実績（研究会）

国土交通、旅行、エネルギー問題、都市再生、環境の5研究会を開設。副理事長を座長とし研究活動を実施。

- (1)「観光の価値・評価」の研究会 2002年1月25日～2002年11月20日まで9回。(2)「旅と危機管理」セミナー 2003～2004年末で9回。最終回は2004年12月16日、国松孝次元警察庁長官を迎え「観光立国と国の安全」という題で、講演。
- (3)「観光立国セミナー」 2004年～2007年実施中。会員だけでなく、関心のある方の参加を歓迎。いずれも、製本しJN協会に保存。会員企業、個人会員の閲覧は御自由どうぞ。

JN協会の活動実績（提言）

JN協会は提言も積極的に行っている。平成14年7月リニア中央新幹線の実用化について小泉首相に提言した。丹羽理事長(当時)は、平成15年1月東京駅周辺に「観光総合案内センター」の開設を、平成15年10月には「江戸城再建」を提言し、話題となった。今後とも研究会活動の成果を踏まえ、積極的に「観光立国」等に関する提言を行う予定である。

江戸城再建、国民運動へ！

…江戸城再建活動キャンペーンにご協力を…

NPO法人「江戸城再建を目指す会」

理事 金成 秀幸

皆さんにご支援戴いている御馴染みのNPO法人「江戸城再建を目指す会」は、本年2月27日に平成19年度年次総会を開催しました。主な議題は、この一年間を掛けて、「いま何故、江戸城再建か」、「どこにどんな城をつくるのか」等のテーマを歴史的、学問的に検証することですが、来年初頭には「天守閣」の具体的な築城構想試案を公表し、世間に「江戸城再建」を強くアピールすることを決議しました。同時に、2年前にスタートした任意団体設立からNPO法人の認証、設立を経て、現在会員総数は460名を越えつつありますが、今年はこれを一気に1,000名に増やす計画を、決議しました。

会の目標は、凡そ今から10年を目途に、**先ず、江戸城天守閣を皇居東御苑に残されている台座の上に再建する…その道筋を切り拓く**ことにあります。

このためには、再建に対する国民の幅広い理解と支援が不可欠です。私たちは再建に向けた“草の根運動”に対する世間の確かな手応えを感じつつも、それを国民運動まで高めていくためには、学問的裏付けのある「再建天守閣」の具体的イメージ像を世に問わなければならない、と決意した次第です。

今月号から、会員・林莊祐さんの「日本NEW SPOT」紹介がスタートします。林さんは、朝日新聞の現役社員で、以下の文章、写真、レイアウトは全て、ご自分で手がけています。ご愛読を（加納）

NEW SPOT

in japan

①

六本木・三角街

芸術の森・上野からアートの街・六本木へ、東京の文化地図が塗り替えられている。今年1月に国立新美術館が開館、すぐそば防衛庁跡地の東京ミッドタウンにサントリー美術館が3月30日移転オープン、3年半前に開館した六本木ヒルズの森美術館と合わせ3つの大きな美術館が出そろった。3館は三角形を描くように位置し「六本木アートトライアングル」と名付けて「アートの散歩をお楽しみください」とPRする。散歩と言っても3館ともボリューム十分の展示で、この三角街を一度に見て回るのは少々しんどい。とくに国立の展示スペースは、1万4千㎡もあり国内最大級。それでも何とか1日で、という向きは、まず午前中に国立を訪ねよう。東京メトロ・乃木坂駅から雨に濡れずに入館できるのがいい。5月7日まで「異邦人たちのパリ」。並行し4月7日に「大回顧展モネ」が始まる。

背景にある考え方は、国境を越えて進むグローバル化の大波の中で、物の豊かさを享受する反面、次第に日本の伝統と文化が軽んじられ日本人としてのアイデンティティすら見失いつつある…との時代認識があります。江戸城は、当時の全国各地の人智・技術・工芸と資材の結晶といっても過言ではなく、これが再建されれば、日本独自の古き、良き伝統と文化を伝承し（温故知新）、日本らしさを体現する偉大な歴史的モニュメントになると同時に、このような文化財としての江戸城の再建は、国際的にも通用する日本の国づくりにも貢献するものと確信しています。

江戸城天守閣は高さ60メートルの5層6階建ての巨大木造建造物でしたが、これを今日忠実に復元できるのか、工期や建設費はどれほどか、という問いに対する明確な答えは未だにどこにも出されていません。会としては、この道の専門家に研究を委嘱し、これらの基本的な問いに対する解をできるだけ早く得て、首都圏のみならず地方の方々にも広く伝えたいと考えて入る次第です。

私達の組織は、まだ基礎が固まっているとは言えません。一人でも多くの個人や法人が、当会の活動趣旨にご賛同いただき、会へのご加入、またはご寄附を賜りますことを願ってやみません。

（当会の事務局電話番号：03-5968-4080）



六本木ヒルズ52階から眺める国立新美術館

秋には公募展が上野からどっと移って来るといふ。遅めのランチを同館のカフェかミッドタウン辺りで楽しみ、サントリー開館展「日本を祝う」（6月3日まで）へ。

タウン内には数寄屋橋で50年間親しまれた富士フォトサロンも3月30日に移り、版画やデザインの美術館も同日開館する。のんびり午後のティータイムを過ごしヒルズへ向かう。森美術館は5月6日まで「日本美術が笑う・笑い展」。併設の人気スポット東京シティービュー52階からの眺めは昼も夜も絶景だ。（写真・文 林 莊祐＝会員）

「観光立国と私の提言」①

観光振興で経済活性化を目指す

昨年新設の観光経済課・荒木課長に聞く

JN会員 加藤 和子

政府の観光に対する取り組みを支える国土交通省に、昨年7月に誕生した「観光経済課」。課名に「観光」を冠した6つの課の1つである。今回はその初代課長の荒木由季子さん（写真右）に話を聞いた。



2010年までに日本を訪れる旅行者を、年間1000万人にするという「ビジット・ジャパン・キャンペーン」の下、2004年11月に牛尾治朗・ウシオ電機代表取締役会長を座長とする観光立国推進戦略会議が55の提言をまとめる一方、行政としては国土交通省の総合観光政策審議官主宰で関係省庁（防衛庁まで入っている！）連絡会議が設けられた。

昨年、観光関連の人員を大幅に増やした国交省が新設した観光経済課の役割の1つに、この会議の事務方として提言の実施を見守っていくことも含まれている。

だがその名が示すように、そもそも同課が設けられた背景には、観光によって経済を活性化しようという思いがあるという。

ビジット・ジャパンの話のなかで、荒木課長は、この数年、海外から日本の観光資源に対する投資への関心が高まっていることを指摘。代表例として北

海道のニセコのスキー場を挙げた。日本と夏冬が逆転しているが、時差はほとんどないオーストラリア人のスキー客が押し寄せているのだ。単に観光客として訪れるだけでなく、オーストラリア人によるリゾートマンションやペンションの買収など、対日直接投資（というと少し大げさかもしれないが）にもつながっているという。

こうした事例は、ゴルフ場が不足する韓国企業による福島のゴルフ場への投資など、着実に増えているそうだ。荒木課長の古巣である経済産業省の「インベスト・ジャパン」の活動とも連なる動きであり、省庁間の人事交流の妙を感じる。

荒木課長は、海外からの観光客誘致には、「日本人、日本の自然や文化、経済プレゼンスなど、日本そのものが海外の人々を引きつけるに足るものを持っているかが問われる」と語り、活性化のための具体策として、欧米のようなホテルの格付けシステムなど消費者側のニーズを汲み上げることのできるソフトインフラの整備の重要性を強調した。

JN情報紙5月号に仙台講演会を掲載

4月13日に開く東北支部設立総会の模様と、同時に行う「観光立国フォーラムin仙台」の内容は、5月に発行するJN情報紙47号に掲載します。

6,7ページに「JN協会6年の歩み」（活動状況）を載せています。ごらんください。

C O L U M N

体重計の使い方

かつて社会主義政権下のルーマニアでは、都市のいたるところに大きな体重計が置かれていた。当初あれは一体何だろうか、どうして町の一等地の目立つ場所に、あんな不細工なものがあるのか首をかしげたものである。女性ガイドに聞いてみると、女心はデリケートで何とかやせたい乙女心が、毎日その体重計にコインを投入しては、健気にも減量の効果を確認しているので流行っているのだという。その当時から旧東欧諸国の女性の肥満度は異常なほどで、20歳を過ぎると悩ましかった麗人の身体がサイドに広がりだす。新体操競技などでは、美形のブルガリア、ルーマニア、ロシア系の選手が圧倒的に上位を占めていたが、彼女たちも競技から引退した途端、栄養の行き届いたタダの女性に変わってしまう。体形の落差は歴然として見るも気の毒なほどである。

しかし、ロシアの田舎あたりでは肥満とか減量なんかをあまり気にしないのか、中年女性が10人寄れば、その10人がみな肥満傾向だ。それでいて諦めきれずにやせたい女性の願望は強く、彼女たちの間では意外なほど体重計が人気を集める。ところが、この体重計の目盛りがいずれも120kgまでしかないのである。120kgを凌駕しそうな女性がいくらでもいる東欧社会で、彼女たちの体重は一体どうやって計測するのだろうか、と長い間不思議に思っていたところ、最近あるロシア書に紹介された記事でやっと永年の謎が解けた。

なんと二つの体重計を並べてその両方の体重計に片方ずつ足を乗せ、瞬間的に両方の数値を見て足し算をする、実に原始的な計測をするそうである。まさに「目からウロコが落ちる」？の類である。「1+1=2」「肥満女性」「体重計」の3つのキーワードが、目まぐるしく頭の中を駆け巡った。民族や文化が異なれば、奇想天外な発想もありうることを今更ながら考えさせられた。（近藤）

「日本で見つけた 世界おいしい物語」

ビストロ ターブルドット

ターブルドットとは、(Table d'Hotes=常連客のテーブル) という意味で、10名から20名ほどの個室でシャンブルドットとも呼ばれる。

代官山駅から徒歩15分ほど、鉢山交番の近くの閑静な住宅街、緑の森に囲まれた隠れ家的なレストランが、ビストロ ターブルドットである諸戸オーナーシェフはカトリック系女子一貫教育を日本で受けたあと、渡仏してコルドンブルーで修業、その後日本のタユバンロブションで腕を磨いたのち、実家の庭先にレストランをオープンした。

木、金、土のみオープンで、予約のみ。

ビストロと名づけているので、価格はリーズナブルで、5,250円のお任せコースのみ。メインを魚にしたい場合は、予約時か前日までの連絡が必要。

例えば、アミューズに「茄子のキャビア風カナッペ」、前菜に「秋刀魚パン粉焼き、クスクス、自家製鴨の燻製、きのこのテリーヌ」、メインはクリームソースがたっぷりの「ホロホロ鶏のフリカッセ」「舞茸のリゾット」、そしてデザート3種類という豪華版である。2月には、昨年バスク地方を視察したシェフが仕入れてきたレシピで、「バスク地方のワインと料理のタベ」が開かれた。

住所は 渋谷区鉢山町9-18

渋谷からは、コミュニティバスの東急トランセやハチ公バスで鉢山町交番駅で降りれば目の前である。完全予約制で、電話は、03-3464-1776
営業日は、木、金、土17:30から23:00で、ラストオーダーは、21:30。 (大島 慎子)

日本唯一のホテル客室常備文化情報誌

JAPAN NOW

1985年の創刊以来、内外の多くのお客様にご愛読いただいていた「JAPAN NOW」誌は、2005年度版より日英全文対訳となり、学校教材としてもますます高く評価されています。3月末に出来上がった2006年度版は、マンダリンオリエンタルホテル東京、グランドハイアット東京など、東京を中心に新たに開業したラグジュアリーホテルを含む110館55,000室の客室に常備されます。



日本文化の再発見を通じ新たな観光資源を紹介し、現代日本を代表する執筆者やカメラマンたちによって日本のいまを生き生きと伝えることが、「JAPAN NOW」誌の編集方針です。

2006年度版は、日本人の伝統的な美意識を時間という視点からとらえなおした「ときうつろい」と、現代の日本がいかにしてつくられたかを問い直す「近代の面影」という2つの特集

を中心に構成されています。

1部2000円(送料別)で購入できます。お問い合わせは(株)ジャパン・ナウへ。電話・FAX 03-3536-1751

地域興し・マラソン大会

2月18日、東京マラソンが開催された。おなじみの新宿・銀座など車道を走れるのですから、市民ランナーの仲間入りをしている私も(10キロマラソンですが)早々に申し込みましたが、抽選にはずれテレビ観戦で楽しみました。

聞くとところによると、3万人の定員に対して3倍の応募があり海外からの応募も2千人あったとか。沿道の参加者は178万人。厳寒の中としては大いに盛り上がった一日であった。ちなみに来年20年は2月17日(日)に開催が決定したそうです。

地域興しのイベントとしてマラソン大会を企画する町は毎年増え、専門雑誌を見るだけでも参加したくなるものばかりである。参加費は平均3,000円。完走後ドリンク・トン汁・温泉入浴券などのサービスがあり参加賞として地元の特産品・Tシャツなどがもらえる。4月15日の第2回掛川・新茶マラソンは「つま恋」をスタートするコース。フルマラソンから1キロまで6種目あり、新茶畑を見ながら走り、途中メロン・キウイ・イチゴなど地元のフルーツを口にするができるフルーツステーションも設置され、地元の風を感じることができる。フルマラソンの参加費は4,500円。特産のお茶とオリジナルグッズが参加賞にももらえる。



市民ランナーの私(写真)

がエントリーするのは、4月29日に開催される第24回甘楽町さくらマラソン。3回目のエントリーである。織田氏で栄えた城下町の桜並木は風情があり、春の花が咲き乱れる中を走るのは記録

を忘れるくらい楽しめる。完走後のサービスは温泉入浴半額券。参加賞は地元特産物で昨年は、コンニャクのセットが提供された。日本全国一年中開催されているが、申し込み締め切りはほとんどが開催1ヶ月前である。(堤 るり)

【会員募集】

都市の再生、観光振興、環境保全の市民活動に賛同する会員を募集しています。

個人会員(1口5千円)、団体会員(1口5万円)

東京都渋谷区代々木1-58-13小田急代々木ビル3階

JAPANNOW観光情報協会(電話03-5304-9500)

へご連絡ください。

会員の投稿を歓迎します

情報紙の充実を目指して!!

観光情報紙2007年5月号への個人、団体会員の投稿を歓迎します(400~500文字程度)。皆様のご意見を、どしどしお寄せ下さい。詳細は事務局まで。

発行は2007年5月25日。締め切りは5月15日。

観光カリスマ制度と岩切章太郎賞 高崎経済大学観光学科教授 寺前秀一

観光政策推進の方策として、人づくりが叫ばれている。その人づくりの一環として各大学における観光学科、学部の設置が進展しているが、それとともに観光地域づくりに貢献した人への顕彰制度が実施されている。その代表に観光カリスマ制度があるが、観光政策として考察した場合には実に不思議な制度でもある。

まず、観光カリスマは観光カリスマ選定委員会により選定されるとあるが、同委員会の性格が曖昧である。同委員会の事務局が関係省庁の職員が務めているところから、選定委員には国の予算である委員等謝金が支払われていると推測される。

一方、大臣表彰等が国の行政機関の内部規定に基づき厳格に実施されていることと比較すれば、観光カリスマ制度そのものは、行政機関の決定の性格はおおよそ持ち合わせていないと推測される。しかしながら、報道は関係行政機関の担当部局名で行われており、この点が民間顕彰制度とも異なるところである。

観光カリスマ制度に先立つこと15年前の1988年に宮崎市が「岩切章太郎顕彰観光振興基金条例」を制定した。宮崎市名誉市民故岩切章太郎氏の功績をたたえ、その偉業を継承して本市の観光を振興するため、岩切章太郎顕彰観光振興基金を設置したのである。

政策論としてみた場合には、予算、条例が措置されており、観光カリスマ制度より行政手続面で優れたものとなっている。

観光といわれるものは、権威と一定の距離感において存在する面があり、これを公的機関により顕彰するには、しっかりした手続制度の確立が必要であるが、観光カリスマ制度は制度内部に矛盾を抱えたまま実施されており、危うさを抱えている。現に事件、事故に関係したカリスマが選定されたこともある。観光カリスマが思いつきの制度のまま自然消滅しないことを期待したい。

いずれにしろ顕彰制度は現存する人物を対象とする限り困難さを伴うものであるだけに、観光人づくりにおいて留意すべきは、歴史の評価に耐えた人物に学ぶ必要がある。

~~「まち」から「むら」から~~ 松江市が国際交流促進に本腰

「国際文化観光都市」を名乗れるのは、全国で京都、奈良そして松江の3都市だけなのだそう（市報・松江から）。「世界にひらかれたまち」を標榜して、松江市が進めているのが、諸外国との交流、国際理解の推進、国際化に対応したまちづくり、の3本柱。なかでも、小中学校での外国語指導助手は19人と、全国的にもハイレベル。

中国・杭州市など6つの友好・交流都市との、交流イベントにも力を入れている。（K）

あめりか観光通信 その11 ~NYのロープウェイ~

ニューヨークの通勤用ロープウェイ

ニューヨーク、マンハッタンを流れるイーストリバー。その川の中に中州のように浮かんでいるのがルーズベルト島。マンハッタンと隣接するクイーンズ地区とに挟まれた東西300メートル、南北3キロメートルほどの本当に細長い島です。この島にはかなり変わった歴史があります。かつては天然痘専門の病院や刑務所があり、決して明るいところではなかったようです。今では高層アパート群が立ち並ぶ島で、マンハッタンで働く人々のベッドタウンといった雰囲気です。

マンハッタンからルーズベルト島への交通は地下鉄やクインズボロ・ブリッジをわたっての車や徒歩などありますが、お勧めはトラムウェイ。イーストリバーを横切ってマンハッタンサイドから島の駅までは約4分ほど。最高75メートルの高さを行きかうロープウェイからはマンハッタンやルーズベ

ルト島の景色が一望できます。

このトラムウェイでルーズベルト島へ渡れば、マンハッタンすばらしい眺望が広がります。イルミネーションに輝く夜景を楽しむこともできます。また、マンハッタンサイドのFDRドライブからはルーズベルト島の廃墟となった病院の建物がライトアップされて見ることができます。

トラムウェイは1976年に開業したもので、ルーズベルト島のシンボルとして漫画にも描かれました。その漫画が原作になったのが2002年に制作された映画「スパイダーマン」で、勿論映画のシーンでも重要な役割を果たしています。

また、ビリー・クリスタルの「シティ・スリッカーズ」、シルベスター・スタローンの「ナイトホークス」などの映画に登場しています。

私がお勧めしたいのはリンダ・フェアスタインという作家の書いたサスペンス・ミステリー「妄執」（ハヤカワ文庫）です。ニューヨークの女性地方検事補アレックス・クーパーが活躍するシリーズものの一つで、まさにルーズベルト島の歴史そのものにヒントを得て書かれた作品です。是非、ご一読下さい。（JN会員 井上嘉世子）



音のミステリー

3月に入ったが朝晩はまだ冷え込む日がある。夜間の冷え込みは、地面から熱が奪われて地面付近の気温が下がるためである。特に良く晴れて・風が弱く穏やかな日に熱がどんどん逃げる。この現象を放射冷却現象と呼んでいる。一方、曇り空の時は熱が雲にさえぎられて、上空に熱が逃げないため寒さも和らぐ。また、風が強いと冷たい空気が一か所に凝まず掻き混ぜられるので冷え込みも弱い。放射冷却現象が強い寒い朝に不思議な現象が起きることがある。いつもは聞こえない遠くで鳴く犬の声や電車の音が聞こえることがある。

この現象は、盆地や谷間の冷たい空気が溜まり易い地形の所で多く発生する。冷たい空気が溜まった所を冷氣湖または寒気湖と呼んでいる。冷氣湖が発生している所では、地上より上空で気温が高くなっている。この温度の変化が不思議な現象を作り出す。音の伝わりは暖かな空気ほど速く伝わり、冷たい空気は伝わる速度も遅い。

気象とお天気の話

音の進む速さは通常、気温が0度の時には毎秒331m進み、一度上がる毎に0.6mほど速く進む。例えば、気温15度の時に音の速さは毎秒340mとなる。また、空気中を伝わる音は、気温の高い方から低い方に湾曲する性質を持っている。普段聞こえない音が聞こえたりするのは、音の進むスピードや湾曲する性質が影響している。

昭和33年11月10日、大陸から移動してきた冷たい高気圧に日本付近は覆われ、内陸部を中心に夕方頃から放射冷却現象が発生した。このような気象状態で浅間山が大爆発した。この時の爆発音は、地元の長野県内で聞こえなかった。しかし、山を越えて名古屋・浜松で聞こえたと言う記録が残っている。これも空気の性質がいたずらしたミステリーな現象である。



浅間山(軽井沢測候所資料)

財団法人日本気象協会 千葉善明

会員名簿

(敬称略) (個人会員名簿は公開していません)

- 名誉顧問 : 松山善三 (映画監督)
 理事長 : 松尾道彦 (日本海事財団会長、前日本鉄道建設公団総裁)
 顧問 : 丹羽晟 (前理事長、日本空港ビルデング相談役)
 副理事長 : 白澤照雄 (JN協会事務局長)、岡村進 (小田急電鉄嘱託)、橋元雅司 (元国鉄副総裁)、横山善太 (株JALUX特別顧問)、大島慎子 (ドイツワイン基金駐日代表)、小竹直隆 (元JTB専務)、須田寛 (東海旅客鉄道相談役)
 支部長 : 片山文彦 (新宿支部)、水野卓哉 (北陸支部)、田久保万里夫 (立教支部)、長尾亜夫 (九州支部)、須田寛 (中部支部)、岩田弘三 (神戸支部)、坂本眞一 (北海道支部)、梅原利之 (四国支部)

【団体会員】(2007年03月25日現在)

(株)朝日ネット、(株)アドバン、荒井建設(株)、アンデス電気(株)、安藤建設(株)、池田煖房工業(株)、(株)伊勢丹、射水市(富山県)、(株)井六園ワールド、岩田建設(株)、(株)エスシー・マシーナリ、(株)HKIアクシス、(株)大林組、隠岐の島町(島根県)、(株)奥村組、小田急建設(株)、小田急電鉄(株)、(株)小田急トラベル、鹿島建設(株)、鹿島道路(株)東京支店、大阪国際空港ターミナル(株)、(株)大塚ババレッジ、関西電力(株)、九城企業(株)、(株)九電工東京支店、九州電力(株)、九州旅客鉄道(株)、(株)熊谷組、(株)グリーンキャブ、群馬県、京浜急行電鉄(株)、(株)耕人舎、佐川アドバンス(株)、三協立山アルミ(株)、(株)三普旅行社、四国電力(株)、四国旅客鉄道(株)、清水建設(株)、(株)JAL-LDF S、(株)JALUX、(株)JTB、(株)ジェイアール貨物・リサーチセンター、消音技研(株)、新菱冷熱工業(株)、常磐興産ピーシー(株)、住友電設(株)、(有)西洋館センター、静和堂竹内印刷(株)、(株)銭高組、全日本空輸(株)、パーキングプロ(株)、セントラルリーシングシステム(株)、(株)ダイエーコンサルタンツ、第一交通産業(株)、第一資材(株)、(株)大気社、大興物産(株)東京支店、大成建設(株)、大成サービス(株)、大成設備(株)、大成ユーレック(株)、大鉄工業(株)北陸支店、大日産業(株)、(株)高商、高砂熱学工業(株)、(株)竹中工務店、(株)丹青社、中部電力(株)、ティーシートレーディング(株)東京支店、電研工業(株)、東海旅客鉄道(株)、東急建設(株)、東京急行電鉄(株)、東京国立博物館、(財)東京観光財団、東京電力(株)、東光電気工事(株)、東芝エレベータ(株)、東北電力(株)、トーヨーカネツソリューションズ(株)、戸田建設(株)、名古屋鉄道(株)、西日本鉄道(株)、西日本旅客鉄道(株)、(株)西原衛生工業所、西松建設(株)、日墨ホテル投資(株)、日本オーチス・エレベータ(株)、(株)日本海コンサルタント、日本空港ビルデング(株)、(株)日本航空インターナショナル、(財)日本交通文化協会、(社)日本添乗サービス協会、(株)日本プラント建設、(財)日本ホテル教育センター、ネスレ日本(株)、箱根町(神奈川県)、箱根建設(株)、東日本旅客鉄道(株)、(株)日立ビルシステム、(株)日立製作所、(株)ビッグウイング、福岡空港ビルディング(株)、(株)フェイクデリックホールディングス、(株)フィールドサービス、富士機材(株)、藤長電気(株)、富士通(株)、プラネットワークス(株)、北海道旅客鉄道(株)、北海道電力(株)、北陸電力(株)、北海道空港(株)、(株)ホテル小田急、(株)ホテルメトロポリタン、前田建設工業(株)、(株)ホテルマリックス、マイナミホールディングス(株)、三井住友建設(株)東京建築支店、三菱電機(株)、(株)ミルックス、(株)山武ビルシステムカンパニー、有楽土地(株)、(株)USEN、横浜貨物総合(株)、横浜ビル建材(株)、(株)ランゲージネット、菱重輸送機エンジニアリング(株)、りんかい日産建設(株)

特定非営利活動法人(NPO)

人と都市・観光の地球時代を、市民が支えます

JAPAN NOW
観光情報協会

〒151-0053 東京都渋谷区代々木1-58-13

小田急代々木ビル3F

電話 03(5304)9500

FAX 03(5304)5632

E-mail info@japannow.org

Home page http://www.japannow.org

発行人: 白澤照雄(JN協会事務局長)

編集長: 加納 隆(JN協会理事)

発行部数: 3000部 主な配布先: 会員、中央官庁、地方自治体、民間企業、マスコミなど

編集後記

この情報紙の編集担当が替わります。いま編集長を務めている加納が編集顧問になり、事務局次長の杉行夫、堤るりのご両氏が編集担当となります。2002年春から取材・編集に携わっていた加納も、古稀。最近はとみに目が上がってしまい、細かい字や映像をみるのが厳しくなっていて、ミスが出始めたのです。

当分は、市長インタビューやシンポジウムの取材・執筆はお手伝いしますが、紙面への貼り付け・編集などに関しては「若手をお願い」と言うことです。ホームページの作成も同様に「お願い」することとしました。つたない編集でお目ざわりな面も多かったと思いますが、お許しください。つれて、紙面刷新もあろうかと思っておりますので、今後ともご愛読のほど、お願い申し上げます。(加納)